

# 四国地方渇水

災害発生日 平成17年6月15日～9月6日

主な被災地 四国地方

## 四国の水がめが貯水率ゼロ 台風による降雨で一転100%に

四国地方は空梅雨のため、初夏から渇水が続いていた。四国の水がめ、吉野川の早明浦ダムが貯水率ゼロとなり、香川県では80日以上にわたり取水制限が行われた。水源として同ダムに頼る香川、徳島の両県で渇水対策本部が設置されるなど事態は深刻化、渇水状態は夏いっぱい続いた。

### 香川県中心に市民生活を圧迫 発電用水で急場しのぐ対策も

四国地方では初夏に水不足が表面化した。取水制限のために学校のプールは中止。トイレ利用個数の制限、洗濯機の休止、夜間給水制限など、様々な面で市民生活に支障をきたしていた。吉野川の早明浦ダムは8月19日に貯水率が0%となり、ダムに残された発電用水の水道用水への緊急放流が始まった。

早明浦ダムに水道水の半分を頼っている香川県では1町で夜間断水、水道の水量を抑える減圧給水を県内5市13町で実施した。早明浦ダムの貯水率がゼロになるのは1994年の大渇水以来11年ぶり、当時は高松市が1日19時間の断水を1ヶ月にわたって実施している。

また、徳島県南部を流れる那賀川でも4月下旬より渇水となり、長安口ダム(県)の利水容量が枯渇するなど、延べ113日にも及ぶ取水制限が行われ、工業

関係の被害総額は出荷額ベースで68億5000万円にものぼった。

### 大雨で一気に解消 取水制限も全面解除

9月6日、台風14号による集中的な降雨で、同日0時に4.6%だった早明浦ダムは急速に貯水率を回復。20時には貯水率100%に達し、80日以上実施された香川用水の取水制限も全面解除された。

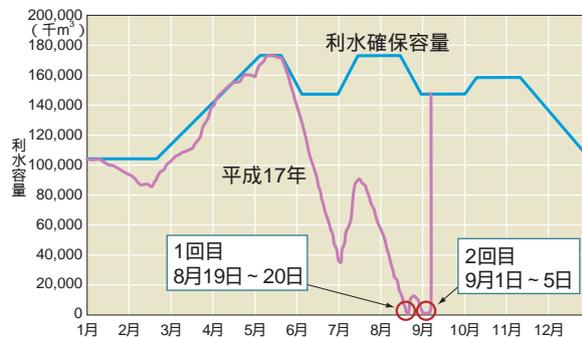
渇水に悩まされた四国地方の市民の生活は正常に戻り、香川県は6月15日から85日間設置されていた渇水対策本部を7日に解散した。

早明浦ダムは、ダム地点の最大流入量約5600m<sup>3</sup>/sのうち約5500m<sup>3</sup>/sを貯留することにより、過去最大の治水効果を発揮した。これは、利水容量のすべてが洪水調節に利用できたことが、大きく影響している。



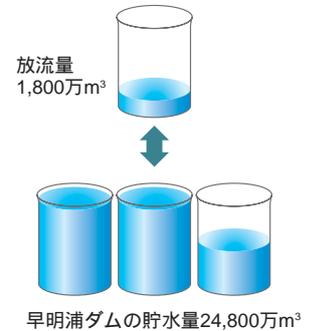
早明浦ダム貯水状況  
写真上 / 平成17年9月5日撮影 (利用貯水率0.0%)  
写真下 / 平成17年9月7日撮影 (利用貯水率100.0%)  
〔写真提供 / 独立行政法人水資源機構池田総合管理所〕

早明浦ダム貯水池変動 (平成17年)

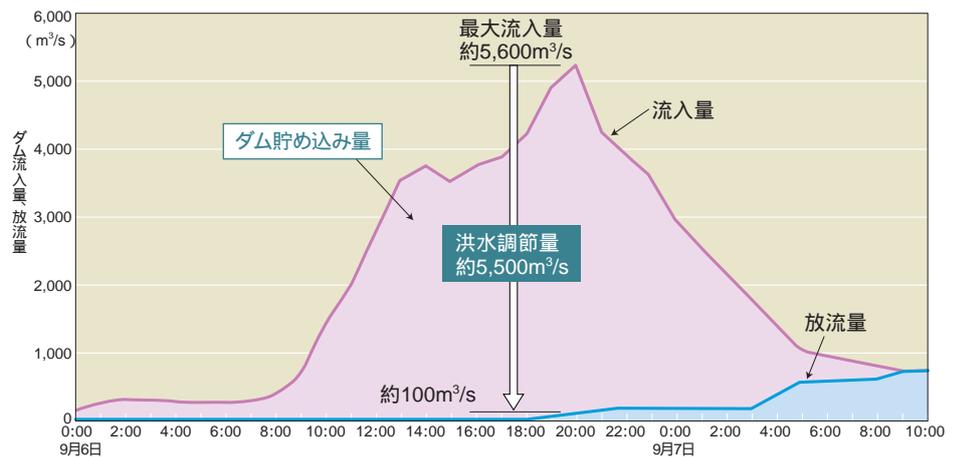


〔資料提供 / 独立行政法人水資源機構池田総合管理所〕

過去最大の治水効果を発揮



早明浦ダムの流入量と放水量の推移



〔資料提供 / 独立行政法人水資源機構池田総合管理所〕